

コミュニティ・スクールだより

第2回学校運営協議会 ～『熟議』～

10月13日（水）第2回学校運営協議会が開催されました。今回は最初に学校施設と授業を参観した後、学校が直面する課題のうち部活動に焦点を当て、「これからの部活動のあり方」について熟議（熟慮と議論）を行いました。はじめに河北中学生徒指導主事の遠藤先生から、部活動に関わる課題について説明があり、その後、大きく2つのテーマで話し合いが行われました。

今回の熟議は何かを決定するものではなく、学校が抱える課題を共有するとともに、様々な立場から自由に意見を出し合い、今後の課題解決に向けた参考にしてもらうという趣旨で行いました。約1時間半にわたり、大変活発な意見交換がなされました。



【部活動に関わる課題】

- ◆ 少子化による部員減少 → 部の存続が危ぶまれている、試合に出場できない
- ◆ 生徒の希望の多様化 → やりたい部活動がない、外部スポーツ団体に行く生徒の増加
- ◆ 指導する教員数の不足 → 複数顧問を配置できない、大会引率、安全管理等の問題
- ◆ 専門外の顧問による指導 → 3分の1の教員は未経験の部の指導、教職員の負担
- ◆ 教職員の時間外労働の常態化 → 心身の疲労、教職員の家庭への影響
- ◆ 学習時間の不足 → 家庭学習の時間が全国平均よりも少ない（R3 全国学調より）
- ◆ 自主性の不足 → 自分で考えて行動する時間が少ない、自分のやりたいことができない

【熟議】 テーマ1「適正な部活動数に向けて」※主な意見を抜粋

- ・少なくとも1つの部に複数顧問がつける数にすべきである。
- ・部活動数を絞る場合、団体競技に絞るか？目的に沿って絞るか？
- ・人数が少なく次年度入部する生徒がいない場合や地区総体に2回出場できない場合は募集停止などというルールを設ける。
- ・河北町で特に力を入れてきた伝統の部活動を減らすことは難しいのではないか。
- ・文化部においても運動部と同様、ある程度人数を決め、人数が少ない場合は募集停止を考える。
- ・中体連の野球、サッカー以外も男女混合を認めてはどうか。
- ・部の廃止、再編を柔軟に考える（対応する）。→人数がいなかったら停止、人数が集まったら再編。
- ・個人と団体の部がある部活動について→団体では出場できず、個人では出場できなくなった場合に、顧問をつけるのはどうか。
- ・子ども達はどうしたいのかという本人達の意志を尊重することが1番大切。



- ・校長が認めた外部コーチに部活動をお願いする。
- ・地域の人材を（指導員として）どんどん取り入れる。
- ・地域のスポーツクラブ、スポ少の指導者による指導→社会教育との連携を図る。
- ・手当等金の金銭的保証もしたうえで地域の方（社会人、公務員）にどんどん支援してもらう。
→それが地域スポーツの活性化にもつながるのではないか。
- ・学校単位ではなく“多数の学校から集まったクラブ”として大会に出場できるようにする。
- ・地域またはスポーツクラブなどの校外の受け皿の拡充。→市町村単位か？地区単位か？
- ・外部活動を中心にやれるような形にする。
- ・外部のスポーツクラブだけだと家庭によって格差が生まれる可能性がある。
- ・大会参加資格を変更し、スポーツクラブの指導者が引率でも大会に出場可能になれば…。
- ・専門的な指導ができる方にボランティアではなく仕事として指導してもらう。
→例：役職を設けて町職員として雇用するなど。
- ・コーディネーターや行政が指導者をきちんと決める。また、身分を定める（立場を決める）。
→その場合、ボランティアではなくなるため謝金を渡すなどが必要になってくる。
- ・地域連携（小・中・高が一体となって）→例：中・高校に共通する部活動については一緒に活動する。
- ・中体連、高体連を解体してクラブ化すべきではないか。
→しかし、日本のスポーツ競技は中体連・高体連で高められてきているという現状もある。
- ・外国のクラブチームの実態、様子をよく把握するなどして取り入れる方向はないのか。
- ・子ども達の自主性を高めるためにも週5日の部活動の必要性はあるのか？
- ・部活動を地域に移行していくことには賛成であるが、現実的には難しいと思う。部活動の持つ教育的意義は大きい。先生方も大変ではあるが、部活動を通して得られる感動を子どもたちと共有してほしい。



部活動に関する国の動きは・・・

昨年、文部科学省のスポーツ庁から右のような部活動改革案が示されました。部活動をめぐる様々な課題の解決に向けた改革案での一つです。

令和5年度から段階的に学校部活動を地域部活動に転換していくという内容ですが、地域指導者の確保や大会運営のあり方、地域による実態の差など、実現に向けては多くの課題があるようです。

子どもたちの可能性を引き出し、持続可能な部活動のあり方はどうあればよいか、学校だけでなく、地域社会全体で考えていく必要があるようです。

『学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について（概要）』（文科省）

<改革の方向性>

- ◆ 部活動は必ずしも教師が担う必要のない業務であることを踏まえ、部活動改革の第一歩として、休日に教科指導を行わないことと同様に、休日に教師が部活動の指導に携わる必要がない環境を構築する。
- ◆ 部活動に指導を希望する教師は引き続き、休日に指導を行うことができる仕組みを構築する。
- ◆ 生徒の活動機会を確保するため、休日における地域のスポーツ・文化活動を実施できる環境を整備する。

<具体的な方策>

休日の部活動の段階的な地域移行（令和5年度以降、段階的に実施）

- 休日の指導や大会引率を担う地域人材の確保
- 保護者による費用負担、地方自治体による減免措置等と国による支援
- 拠点校（地域）による実践研究の推進とその成果の全国展開